

令和3年度 石巻市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和4年5月

石巻市（宮城県）

○計画期間:令和2年4月～令和7年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和3年度終了時点(令和4年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、令和2年3月に国の認定を受けた「石巻市中心市街地活性化基本計画」に基づき、目指す中心市街地の都市像である「石巻らしさを活かし、市民の誇りと石巻に暮らすことの豊かさを醸成できるまち」の実現に向け、令和3年度は、令和3年3月末に配信された「石巻市地方創生RPG『キズナファンタジア 海辺の国の大聖典』」を活用し、地元商店等と連携した取組みを行ったほか、新規事業として「空き地・空き店舗活用助成金」や「移住促進住宅取得補助金」、「石巻マンガロード新名物創出事業」等を実施した。

川沿いエリアについては、北上川堤防の利活用として、近隣商業施設等と連携しながら、野外上映会・音楽ライブ等のイベントを開催し、回遊率向上を図った。また、令和4年3月には復興事業として整備が進められてきた旧北上川河口部の堤防工事が完了し、「堤防一体空間（(通称)石巻かわまちオープンパーク）」が完成したことから、当該施設を活用したエリアマネジメント等を進めることで、より高い経済効果が期待される。

商店等が軒を連ねる立町エリアについては、イベント自粛が続いている今般の社会情勢ならではの取組みとして、中心市街地を中心に「第1回石巻まちゼミ」が開催され、専門的なプロの知識等を楽しく学びながら、商店街を身近に感じる意識付けを行った。

行政・医療・交通・商業が集約されている駅前エリアについては、令和3年より川沿いエリアから移転した「石巻ふれあい朝市」が、川沿いエリアに集中していた賑わいが駅前エリアへの波及効果となり、今後は、駅前エリアの活性化に大きく期待できる。

また、今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、特に飲食業種の方々は大きな打撃を受けていたが、企業への支援制度の構築やコロナの縮小等により、徐々に元の活気が戻りつつある。しかし、依然として予断を許さない状況であることから、今後は社会情勢等の状況も考慮しながら、中心市街地の活性化に向けた事業を展開していきたい。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日:毎年度3月31日)

(中心市街地 区域)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
人口	2,878	2,901	2,859			
人口増減数	6	23	△37			
自然増減数	△42	△31	△28			
社会増減数	50	54	△8			

転入者数	69	80	52			
(2) 地価 地価公示(国土交通省)(基準日:令和4年1月1日)						
	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
鑄銭場 57 番 7	76,000	75,800	75,500			

2. 令和3年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

当中心市街地活性化協議会では、中心市街地における活発的なイベントの開催を支援し、交流人口の拡大を図るため、令和元年度より「賑わい創出活性化助成金」の助成を行っている。しかしながら、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの開催が思うようにできない状況であった。

また、復興事業も概ね終了し、今年3月には川湊として発展してきた北上川河口部の堤防も完成した。今後、更にかわまち交流拠点エリアの利活用が進むことにより、賑わいが活性することと期待する。一方で協議会としては、川沿いエリアから、立町エリア、駅前エリアへと交流人口を拡大させるため、観光客の動線を検討している。引き続き、関係団体と連携を強化し、中心市街地の賑わいを創出していきたい。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
定住人口の増加	中心市街地における社会増減数(人)	-58 (H29～H30 平均)	+19 (R2～R6 平均)	+23 (R2～R3) (R4.3)	A	—	①
	【参考指標】 中心市街地における定住人口(人)	2,872 (H30)	3,006 (R6)	2,859 (R4.3)	C	①	1
交流人口の増加	2施設の利用者数 (人/年)	1,369,912 (H30)	1,469,603 (R6)	1,234,459 (R3)	C	①	①
	歩行者・自転車通行量	17,790 (H30)	19,748 (R6)	12,852 (R3.10)	C	①	①
	【参考指標】 中心市街地回遊率(%)	36.1 (H30)	45.0 (R6)	20.0 (R3.8)	C	—	①
市民活動参加者数の増加	市民交流施設4施設の利用者数 (人/年)	153,429 (H30)	182,315 (R6)	149,201 (R4.3)	C	①	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

目標①【定住人口の増加】

『中心市街地における社会増減数(人)』については、既に目標値に達成しており、中央二丁目3番地区(A1地区)の事業の完了の影響のためと推測される。また、転入者数が転出者数を上回っており、空き地・空き店舗活用助成金等の影響ではないかと推測されることから、今後も同補助事業の活用により、目標達成は可能であると見込まれる。

参考指標の『中心市街地における定住人口』については、社会的要因としては増加しているが、定住人口としては減少していることから、社会増を上回る自然減があったと推測できる。社会増となった理由としては、空き家リノベーション事業や空き地対策計画が開始するなどが影響していると考えられるが、高齢化の進展等により、今後ますます自然減の数値が大きくなっていくことが想定されることから、さらなる定住促進施策

の展開が求められる。

目標②【交流人口の増加】

『2施設の利用者数』（石ノ森萬画館、いしのまき元気いちば）について、石ノ森萬画館では、「アニメージュとジブリ展」みやぎ石巻展の連動企画として、石ノ森章太郎漫画とアニメ展～アニメージュでみる石ノ森ワールドを開催したほか、地元高校生が中心市街地にある建物にスタジオジブリ作品のキャラクターを描き、観光客や市民を楽しませ、交流人口の拡大を図った。いしのまき元気いちばについては、「1, 151, 989」人と目標値の「1, 250, 686」人には届かなかったが、令和2年度と比べ92, 894人増加している。また、旧北上川河口部の堤防工事の完了に伴い、川と一体となったまちづくりとして、川沿いエリアの更なる交流人口の拡大が図られ、中心市街地の活性化に大きく寄与する拠点として賑わいを創出できることから、目標達成は可能であると見込まれる。

『歩行者・自転車通行量』については、令和3年度は、「12, 852」人と前年度比「14, 835」人と基準値をも下回る結果となった。原因としては、まん延防止等重点措置解除後の結果であったことや外出自粛による影響が大きな要因となった。現状としては、いしのまき元気いちばや石ノ森萬画館のある川沿いエリア周辺の通行量が例年多くみられるが、令和3年度は、立町エリア、駅前エリアのイベントの開催が可能であれば、中心市街地の賑わい創出に期待できることから達成は可能である。

参考指標の『中心市街地回遊率（％）』については、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていた事業が多くあったことから減少となったと思われる。今後、イベントの再開等に合わせて回遊率の上昇は見込まれるが、堤防一体空間（（通称）石巻かわまちオープンパーク）の活用なども踏まえ、より交流人口が増加するような内容を検討し、目標の達成に向けて努めていきたい。

目標③【市民活動参加者数の増加】

『市民交流施設4施設の利用者数』（石巻あいプラザ、旧観慶丸商店、かわまち交流センター、アイトピアホール）については、令和2年度の「115, 885」人から33, 114人増の「149, 201」人と目標値に大きく近づいている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で閉館となった施設もあり、利用者が減少したが、令和3年度はイベント等の自粛もあった中での増加であることから、令和4年度はイベント事業を再開することを踏まえると目標達成は可能であると見込まれる。

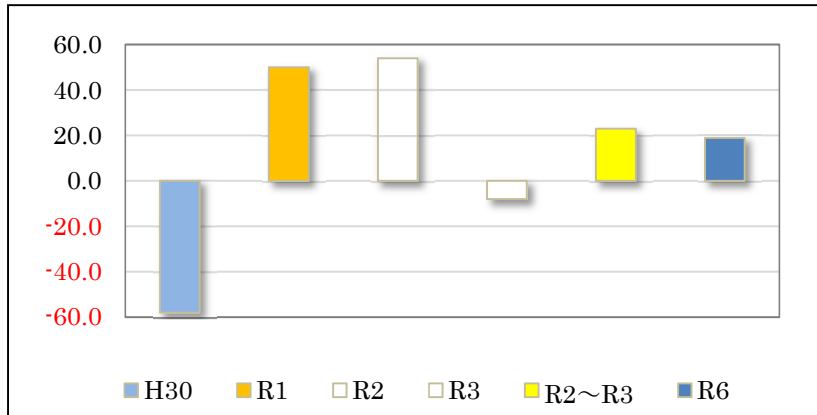
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

なし

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「中心市街地における社会増減数（人）」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 66～P. 67 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H30	△58 (基準年値)
R1	+50
R2	+54
R3	△8
R2~R3	+23
R6	+19 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：毎年度3月末日

※調査主体：石巻市

※調査対象：中心市街地に居住する人数

〈分析内容〉

令和2年度までは、社会増減数が「+54」と増加傾向にあった中、令和3年度になり「-8」と急激に減少した。原因としては、令和3年度は、「転入」が転出を上回る一方で、中心市街地から離れ別のエリアに住み替えする等の影響により「転居」人数が増加したと読み取れる。また、転居の理由としては、断定はできないが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、居住地が密集している中心部から郊外へ移動したと可能性もある推測される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 優良建築物等整備事業（中央二丁目3番地区（A1地区））

事業実施期間	平成29年度～令和3年度【済】 [認定基本計画：平成29年度～令和3年度]
事業概要	まちなか居住の促進や被災者への早期住宅供給とともに、被災店舗の再生を図ることを目的に、店舗及び分譲住宅を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	復興交付金（優良建築物等整備事業・基幹事業）（国土交通省）（令和2年度～令和3年度） [認定基本計画：復興交付金（優良建築物等整備事業・基幹事業）（国土交通省）平成29年度～令和3年度]
事業目標値・最新値及び進捗状況	[事業目標値] 12戸 [最新値] 7戸（分譲住宅6戸，地権者住宅1戸） [進捗状況] 令和3年6月竣工。
事業の今後について	事業完了により定住人口の増加が図られた。

②. 地域優良賃貸住宅（高齢者型）供給促進事業

事業実施期間	平成29年度～令和12年度【実施中】
--------	--------------------

	[認定基本計画：平成29年度～令和12年度]
事業概要	民間活力を活用して建設された高齢者向け優良賃貸住宅の入居者の家賃負担軽減を図るため、家賃の減額に要する費用を補助し、高齢者に低廉で快適な住み良い住宅の提供を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業（公的賃貸住宅家賃低廉化事業）） （国土交通省）（令和2年度～令和6年度） [認定基本計画：社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業（公的賃貸住宅家賃低廉化事業））（国土交通省）（令和2年度～令和6年度）]
事業目標値・最新値及び進捗状況	[事業効果] 民間賃貸住宅を活用し、高齢者に配慮した良質な賃貸住宅を低廉な家賃で提供することにより、高齢者の居住安定を図る。 [進捗状況] 令和3年度末時点での入居戸数は34戸中32戸となっており、ほぼ満室を維持している。
事業の今後について	令和12年度まで事業を継続していく予定。

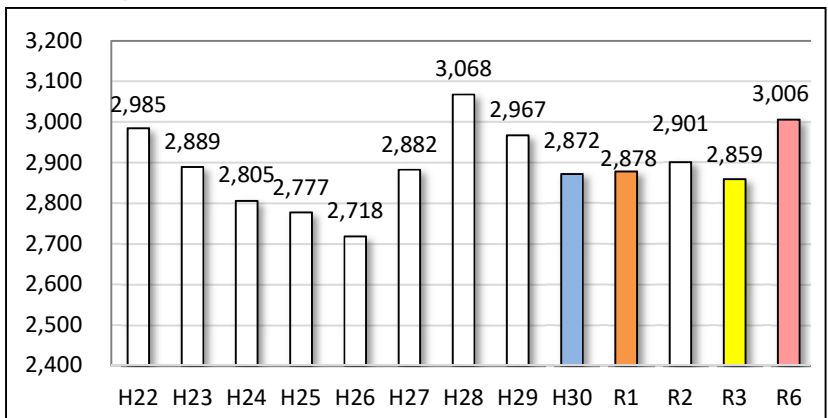
●目標達成の見通し及び今後の対策

特に地域優良賃貸住宅（高齢者型）供給促進事業については、令和3年度末時点での入居戸数は、ほぼ満室を維持しており、定住人口に大きく寄与している。引き続き、事業を実施し、目標達成に取り組んでいく。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「【参考指標】中心市街地における定住人口（人）」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 68～P. 69 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H30	2,872 (基準年値)
R1	2,878
R2	2,901
R3	2,859
R6	3,006 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：毎年度3月末日

※調査主体：石巻市

※調査対象： 中心市街地に居住する人数

〈分析内容〉

減少傾向の要因としては、社会増を上回る自然減が定住人口減少の要因であると推察でき、今後ますます高齢化の進展等により自然減の数値が大きくなっていくことが想定される。また、一部の事業については、事業の遅れが生じているため定住人口に対する効果が発揮されない状況にあることが原因であると分析される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 優良建築物等整備事業（立町二丁目4番地区）

事業実施期間	平成 29 年度～令和 3 年度【実施中】 [認定基本計画：平成 29 年度～令和 3 年度]
事業概要	まちなか居住の促進や被災者への早期住宅供給とともに、被災店舗の再生を図ることを目的に、店舗及び分譲住宅を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	復興交付金（優良建築物等整備事業・基幹事業）（国土交通省）（令和2年度～令和3年度） [認定基本計画：復興交付金（優良建築物等整備事業・基幹事業）（国土交通省）（令和2年度～令和3年度）]
事業目標値・最新値及び進捗状況	[事業目標値] 4 戸（賃貸住宅整備予定） [最新値] 2 1 戸 [進捗状況] 復興交付金を活用し基本設計、実施設計を完了。復興交付金事業について令和 3 年度完了。
事業の今後について	資金計画等の事業計画に見直しを要し、令和 4 年度以降の事業継続手法等について検討中。

②. 優良建築物等整備事業（立町一丁目3番地区（B地区））

事業実施期間	平成 29 年度～令和 3 年度【実施中】 [認定基本計画：平成 29 年度～令和 3 年度]
事業概要	まちなか居住の促進や被災者への早期住宅供給とともに、被災店舗の再生を図ることを目的に、店舗及び分譲住宅を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	復興交付金（優良建築物等整備事業・基幹事業）（国土交通省）（令和2年度～令和3年度） [認定基本計画：復興交付金（優良建築物等整備事業・基幹事業）（国土交通省）（令和2年度～令和3年度）]
事業目標値・最新値及び進捗状況	[事業目標値] 7 0 戸（サービス付き高齢者住宅整備予定） [最新値] 6 0 戸 [進捗状況]

	復興交付金を活用し基本設計、実施設計、補償を完了。復興交付金事業について令和3年度完了。
事業の今後について	資金計画等の事業計画に見直しを要し、令和4年度以降の事業継続手法等について検討中。

③ . 優良建築物等整備事業（立町一丁目5番地区（A1地区））

事業実施期間	平成30年度～令和3年度【実施中】 [認定基本計画：平成30年度～令和3年度]
事業概要	空き地の解消を図り、土地の合理的な高度利用による市街地環境の改善等に寄与することを目的に、商業施設や賃貸住宅、温浴施設等を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	復興交付金（優良建築物等整備事業・基幹事業）（国土交通省）（令和2年度～令和3年度） [認定基本計画：復興交付金（優良建築物等整備事業・基幹事業）（国土交通省）（令和2年度～令和3年度）]
事業目標値・最新値及び進捗状況	[事業目標値] 4戸（賃貸住宅整備予定） [最新値] 30戸 [進捗状況] 復興交付金を活用し基本設計、実施設計を完了。復興交付金事業について令和3年度完了。
事業の今後について	資金計画等の事業計画に見直しを要し、令和4年度以降の事業継続手法等について検討中。

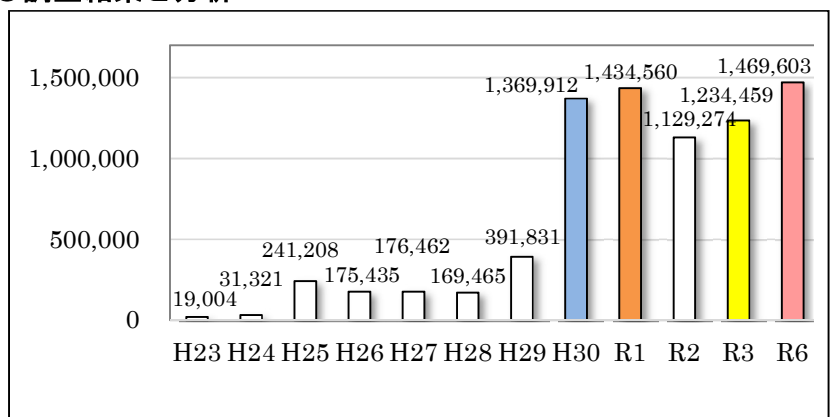
●目標達成の見通し及び今後の対策

優良建築物等整備事業については、資金計画等の事業計画に見直しを要し、令和4年度以降の事業継続手法等について検討中である。

また、他事業については、概ね順調に進んでいることから、目標は達成可能であると思われる。

（1）「2施設の利用者数（人／年）」※目標設定の考え方認定基本計画P.70～P.72参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H30	1,369,912 (基準年値)
R1	1,434,560
R2	1,129,274
R3	1,234,459
R6	1,469,603 (目標値)

※調査方法：施設の利用者数の集計

※調査月：毎年度12月末

※調査主体：石巻市（石ノ森萬画館、いしのまき元気いちば）

※調査対象：石ノ森萬画館入場者数、いしのまき元気いちば利用者数

〈分析内容〉

令和2年度と比較すると若干増加してはいるものの、新型コロナウイルス感染症拡大前と比べると8割程度の数値となっている。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令される期間中は、イベントの中止や外出の自粛により、利用者数の減少が大きく表れているが、期間外については利用者が多くみられる傾向にあった。

また、年明けに宮城県独自で発令された「緊急特別要請」での人流抑制のため、利用者数は減少傾向にあったが、3月中旬より感染症抑制と社会・経済の両立を図る「再拡大防止期間」に移行したタイミングで、利用者数は回復傾向となった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 石ノ森萬画館実施事業（市）

事業実施期間	平成13年度～【実施中】 [認定基本計画：平成13年度～]
事業概要	石ノ森萬画館にて、「マンガの街いしのまき」を体感してもらうきっかけづくりとして各種事業を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	[目標値] 218,917人 [最新値] 82,470人 [事業効果] 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い中心市街地全体の街歩き者が激減する中で、目標未達成ながらも一定の賑わいをもたらす効果を発揮した。 [進捗状況] 新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって観光客が激減しており、流行前までの水準には回復していない。感染症対策に留意しながら入れ込み数の回復に努めている。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症が収束せず入込数回復が鈍い状況だが、マンガや地域文化の発信・交流拠点として、引き続き感染症対策を行い、新しい生活様式に対応しながら中心市街地の賑わいを創出する事業を模索していく。

②. いしのまき元気いちば運営・石巻食発信事業

事業実施期間	平成29年度～【実施中】 [認定基本計画：平成29年度～]
事業概要	本市の中心市街地の拠点エリアに立地する商業施設「いしのまき元気いちば」を運営し、「食のエンターテイメント」

	をコンセプトに、石巻地域の地場産品を紹介し、それらを用いたイベントなど消費者が楽しめ、面白いと感じられるような企画を実施。
国の支援措置名及び支援期間	なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>[事業効果] 令和3年は、1,151,989人の来場があり、元気いちば前の調査人数は、2,490人と増加傾向にある。</p> <p>[進捗状況] 令和3年5月28日～30日の3日間に宮城県産ほやの販売促進を目的とした『石巻ほや祭り』を開催。 宮城県産ほやの販売だけでなく、ほやの剥き方講座やほやアイドルのライブ等を行った。</p>
事業の今後について	今般の社会情勢における制限の中で工夫し、来店されたお客様が石巻の食材を「見る、聴く、触る、味わう、嗅ぐ」という五感で楽しめるイベント企画を徐々に増やしていき、川沿いエリアから人の流れを創出していく。

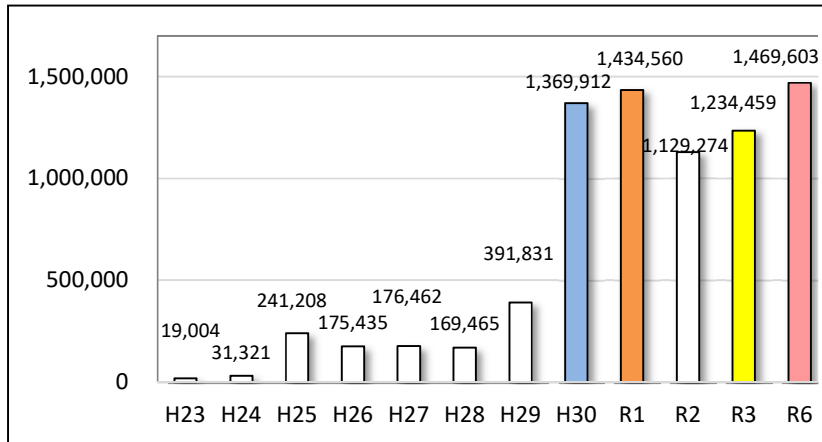
●目標達成の見通し及び今後の対策

事業については、概ね順調に進んでいることから目標は達成する見通しである。

また、例年に引き続き「石巻マンガロード整備活用事業」において、石巻マンガロード内に設置されているマンガモニュメントの修繕等を行い、石巻駅から石ノ森萬画館への道のりをお楽しみいただけるよう、中心市街地の魅力を高め、今後も賑わいを創出していく。

(1)「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P.73～P.76 参照

●調査結果と分析



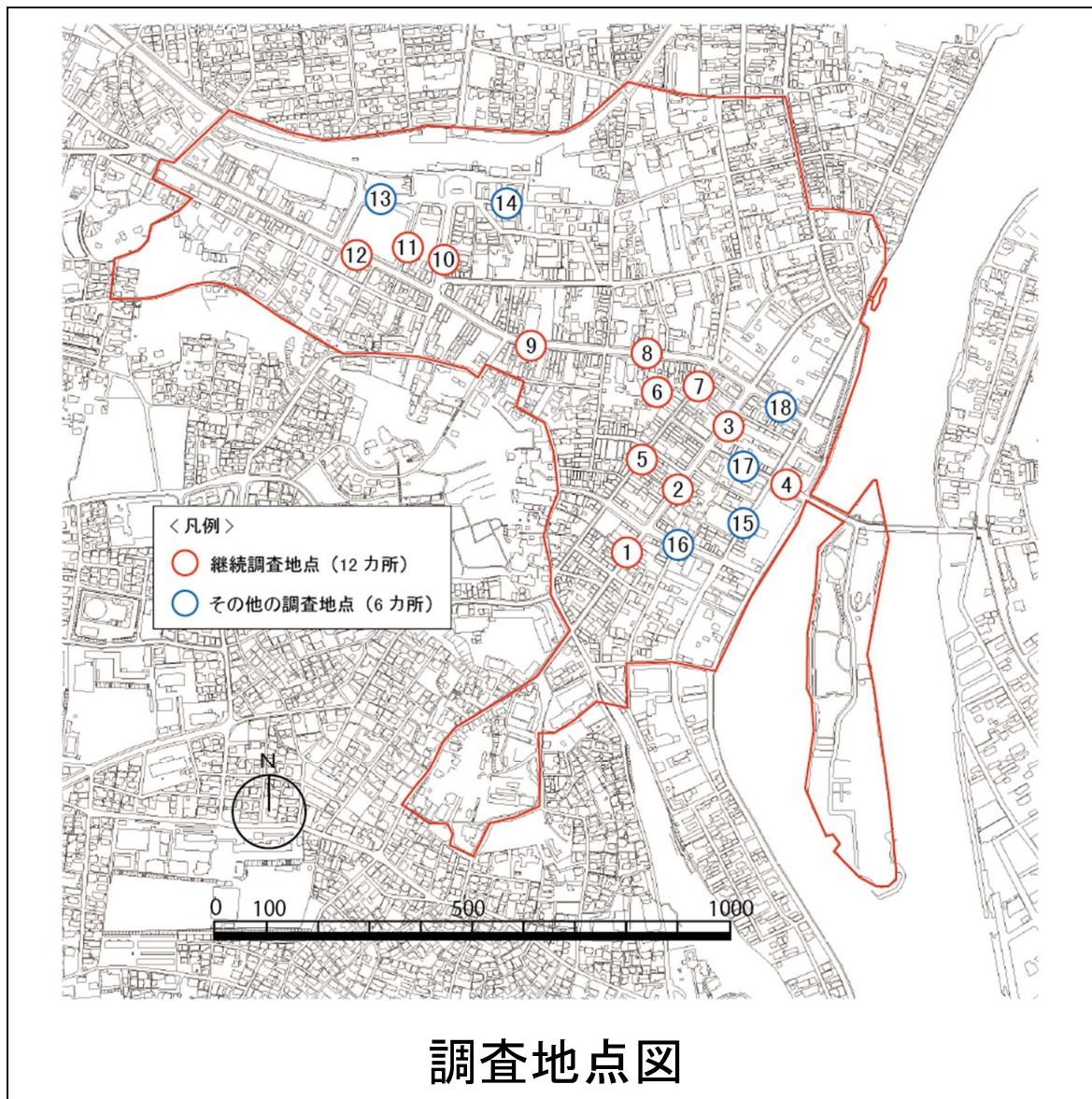
年	(単位)
H30	17,790 (基準年値)
R1	15,779
R2	14,835
R3	12,852
R6	19,748 (目標値)

※調査方法：石巻市中心市街地通行量調査

※調査月：平成15年10～11月、平成20年5月、平成25年11月、平成27年3月、平成27年11月、平成28年5月、平成29年11月、平成30年10月、令和元年10月、令和2年10月、令和3年10月

※調査主体：石巻市

※調査対象：平日・休日の中心市街地内12地点（①中央一大通り、②アイトピア大町、③アイトピア中央銀座、④橋通り、⑤寿町みなみどおり、⑥ことぶき町ポケットパーク、⑦ことぶき町、⑧立町大通り東側、⑨立町大通り西側、⑩駅前大通り、⑪市役所おまさか通り、⑫穀町大通り）における歩行者と自転車通行量の合算値。



(単位：人)

	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
地点①	666	804	816			
地点②	942	1,058	654			
地点③	1,431	1,235	912			

地点④	1,638	1,725	1,621		
地点⑤	760	678	606		
地点⑥	602	556	402		
地点⑦	1,264	1,182	754		
地点⑧	1,894	1,997	1,676		
地点⑨	2,071	2,246	1,669		
地点⑩	2,031	1,493	1,172		
地点⑪	1,004	420	828		
地点⑫	1,476	1,441	1,742		
合計	15,779	14,835	12,852		

〈分析内容〉

歩行者・自転車通行量については、平日・休日に1日ずつ行っており、上記表の12地点については、主要地点の計を記載している。昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響により毎年基準値を下回る状況で、年々減少傾向となっている。

令和3年度は、9月末までのまん延防止重点措置解除直後の調査であったことが、通行量減少の要因であったと推察される。

地点①の中央一大通りについては、前年度比で平日が増加となっており、地点⑪市役所おまさか通り、地点⑫穀町大通りについては増加、地点②から地点⑩については減少となった。

全体的な傾向としては、地点④、地点⑧、地点⑨、地点⑫の数値が高いことから、大通りでの交通量が多いものの、その他の地点にある施設などへの回遊につながっていないことが読み取れる。

⑪と⑫に関しては、ささえあいセンターが新型コロナウイルス感染症にかかるワクチン接種会場となっていたため、増加要因でないかと思われる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 石ノ森萬画館実施事業（市）

事業実施期間	平成13年度～【実施中】 [認定基本計画：平成13年度～]
事業概要	石ノ森萬画館にて、「マンガの街いしのまき」を体感してもらうきっかけづくりとして各種事業を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	[目標値] 261人の増加 [事業効果] 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、中心市街地全体を巻き込み、街歩き者を増加させるような効果を発揮で

	<p>きなかった。</p> <p>[進捗状況]</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、スタンプラリーなどのイベントが開催できず、街歩きを促進することが困難な状態となっている。</p>
事業の今後について	<p>従来型のイベント実施が難しい状況であるが、石ノ森萬画館で行われるイベントの実施と併せ、街歩きを促進するゲームアプリ「石巻市地方創生 RPG」も活用しながら、感染症対策に留意しつつ、中心市街地に賑わいを戻すよう努めていく。</p>

② .かわまちエリアマネジメント事業

事業実施期間	<p>令和元年度～【実施中】</p> <p>[認定基本計画：令和元年度～]</p>
事業概要	<p>都市再生推進法人の指定を受けた民間事業者が、関係事業者とともに堤防一体空間を始めとしたかわまちエリアの管理体制を構築し、日常的な賑わいと憩いの場としての活用を図る。</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>民間まちづくり活動促進・普及啓発事業（国土交通省）（令和3年度）</p> <p>[認定基本計画：民間まちづくり活動促進・普及啓発事業（国土交通省）（令和3年度）]</p>
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>[目標値]</p> <p>中心市街地歩行者通行量19,784人（令和6年度）</p> <p>[最新値]</p> <p>中心市街地歩行者通行量12,852人（令和3年度）</p> <p>[事業効果]</p> <p>旧北上川堤防一体空間において、令和3年4月から令和4年3月まで計29回のイベントが開催され、およそ8,000人の方が訪れた。</p> <p>[進捗状況]</p> <p>年間を通して市民の参画を得て多様なイベントが開催されたほか、キッチンカーによる出店による賑わい創出が図られた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、堤防一体空間や中心市街地を訪れる人の落ち込みが激しく、中心市街地歩行者通行量の増加につなげることはできなかった。</p>
事業の今後について	<p>引き続き、市民の参画を得ながら堤防一体空間におけるイベントの開催を行っていく。令和4年3月に策定された都市再生整備計画に基づき、都市再生推進法人やかわまち交流拠点エリア内の事業者とともに、ウォークブルな空間づ</p>

くりに向けたエリアビジョンの策定や社会実験を行って
いくことで、中心市街地歩行者通行量の増加につなげてい
く。

●目標達成の見通し及び今後の対策

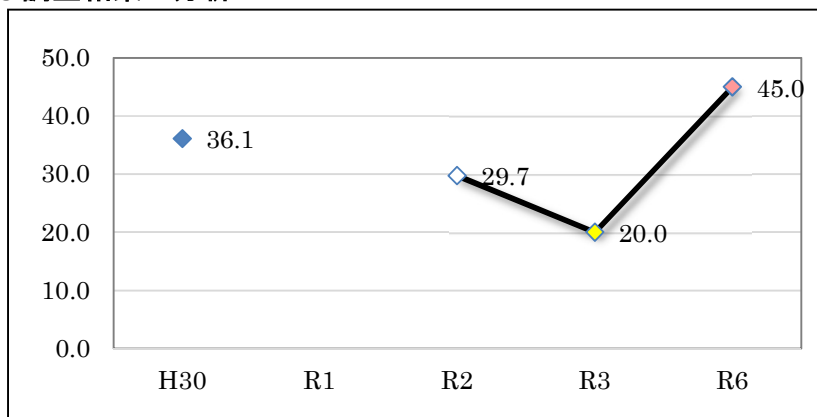
令和2年度の歩行者・自転車通行量調査については、14,835人から1,983人減となった令和3年度は調査が始まった以来最低の12,852人ではあったが、関連事業の進捗については、概ね順調に進んでおり、目標達成は可能であると見込まれる。

今後は、引き続き、「かわまちエリアマネジメント事業」について、事業の効果が発揮できるのは令和4年度以降であることから、関係各所との連携を図りながら、まちづくりと一体となった「かわまち交流拠点」として堤防一体空間の賑わい創出に期待ができる。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「【参考指標】中心市街地回遊率(%)」※目標設定の考え方認定基本計画 P.77 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H30	36.1 (基準年値)
R1	—
R2	29.7
R3	20.0
R6	45.0 (目標値)

※調査方法： アンケート調査

※調査月： 毎年8月頃

※調査主体： 東北学院大学 建築デザイン研究室

※調査対象： 川沿いエリア（元いちば前）への集客を中心とした観光客

※令和元年度は、実施せず。

〈分析内容〉

調査を行った8月は、緊急事態宣言が発令されたこともあり、中心市街地への人手のみならず、県内においても外出自粛の傾向にあった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. マンガを活かした石巻の情報発信と街並みづくり事業

事業実施期間	平成13年度～【実施中】
--------	--------------

	[認定基本計画：平成13年度～]
事業概要	持続的な発展に資する再生加速化計画（アクションプラン）に基づき、マンガを活かした情報発信、地域魅力創出、街並みづくり等を、地元商店街関係者とともに実施することで、商店街の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	宮城県商店街再生加速化支援事業費補助金（宮城県）（令和2年度） [認定基本計画] 宮城県商店街再生加速化支援事業費補助金（宮城県）（令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	[目標値] 中心市街地回遊率45%（令和6年度） [最新値] 中心市街地回遊率20%（令和3年度） （令和2年度は30%） [事業効果] 本事業では、主に石巻マンガロードサイトの管理運営を行った。観光ポータルサイトとして令和3年4月から令和4年3月までの1年間で前年度より151%多い17万ページビューを得た。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で石巻を訪れることができない方々に情報を届けることで、収束後の来訪へつなげようとした。 [進捗状況] 中心市街地の店舗やイベントの紹介をサイト内で記事として掲載したが、新型コロナウイルス感染症の影響により回遊率の向上に繋がらなかったと考えられる。
事業の今後について	引き続き、中心市街地を中心に市内で開催されるイベント情報や観光スポットを掲載し、石巻を訪れたいと思ってもらえるための情報発信や、実際に石巻を訪れた方がより長く滞在してもらえるための店舗・施設紹介を行っていく。 また、地元商店街関係者と共に商店街のビジョンについて検討する場を設けていく。

②. 石巻マンガロード整備活用事業

事業実施期間	平成13年度～【実施中】 [認定基本計画：平成13年度～]
事業概要	石巻駅前、石ノ森萬画館、市役所等の中核施設を結ぶ商店街通りを「石巻マンガロード」として位置づけモニュメント等を整備してきた。今後も中心市街地の魅力創出のためマンガモニュメントの追加設置やウェブサイトの運用を中心とした情報発信を行う。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）令和2年4月～令和7年3月 [認定基本計画] 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）令和2年4月～令和7年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	[事業効果] 石巻マンガロード（マンガモニュメント）の魅力を発信するため、ハード事業やソフト事業を実施し、マンガロードを周遊してもらうことで、中心市街地の賑わいに寄与する。 [進捗状況] ・令和3年度は、石巻健康センターあいプラザ前に設置している仮面ライダーの修繕を行った。 ・「石巻マンガロード」のウェブサイトを活用し、中心市街地で活動する団体の特集記事や街なかでのイベント情報の発信を行っている。 ・ページビュー数（令和4年3月末時点）は、令和2年度と比べ、約6万増加の17万ページビューとなった。
事業の今後について	JR石巻駅から石ノ森萬画館まで続く石巻マンガロードに設置してあるモニュメント等を設置・管理することによって、街なかを歩く楽しさや石ノ森萬画館との相乗効果を図り中心市街地の賑わいと回遊性を高めていく。

③. 街なかイベント開催助成金

事業実施期間	令和3年度～【実施中】 [認定基本計画：令和3年度～]
事業概要	中心市街地における活発なイベントの開催を支援し交流人口の拡大を図るため、石巻市中心市街地活性化協議会が実施している「賑わい創出補助金」に対して助成を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）令和3年4月～令和7年3月 [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）令和3年4月～令和7年3月]
事業目標値・最新値及び進捗状況	[事業効果] イベント開催そのものが自粛傾向にあったが、市内でのワクチン接種が進んだため、感染状況が落ち着きを見せ始めた秋頃より本格的にイベントを開催することができ、人手が少なくなる冬季において、中心市街地の賑わいに大きく寄与することができた。 [進捗状況] 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けたことにより、イベント回数は少なかったが中心市街地活性化協議会と連携を図り事業を進めることができた。

事業の今後について	令和4年度についても実施を予定しており、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、石巻市中心市街地活性化協議会と連携し、中心市街地の賑わい創出に努めていく。
④ . 石巻マンガロード新名物創出事業	
事業実施期間	令和3年度～【実施中】 [認定基本計画：令和3年度～]
事業概要	街なかの店舗一軒一軒に、石巻マンガロードの新たな名物になるような石ノ森作品にちなんだ商品が生まれることを目標に、商品開発費、キャラクター利用の著作権費、広報宣伝費等を助成。また、実施事業者の発掘や著作権に係る交渉などの商品開発に係るサポート業務を実施。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）令和3年4月～令和7年3月 [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）令和3年4月～令和7年3月]
事業目標値・最新値及び進捗状況	[事業効果] 石巻へ訪れお土産を購入していただくだけでなく、石巻から他県へ贈答品を送る人をもターゲットとし、魅力発信及び認知度を図ることができる。 [進捗状況] 令和3年度については、2件の石巻マンガロード新名物を創出した。
事業の今後について	令和4年度より石ノ森萬画館を始めとした各店にて販売を開始する。 また、石ノ森作品とつながりのある漫画家や石巻出身、石巻在住のアーティストが新名物事業へ参入することにより、次世代の担い手だけでなく「萬画のまち・石巻」を発信していく機会となるよう勧めていきたい。
⑤ . 街なか集客販促イベント共同化事業	
事業実施期間	平成26年度～【実施中】 [認定基本計画：平成26年度～]
事業概要	中心市街地への集客と販促につなげるため、商店、飲食店、まちづくり会社等が連携し、イベント等を企画、実施する。
国の支援措置名及び支援期間	なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	[目標値] 中心市街地の回遊率45%（令和6年度） [最新値] 中心市街地の回遊率20%（令和3年度） （令和2年度は30%）

	<p>[進捗状況]</p> <p>令和3年1月15日から2月13日まで「石巻まちゼミ」を開催した。商店街の店舗を中心に18店舗が参加し23講座を開講し、延べ83名が参加した。アンケート結果より、参加者のうち99%が満足であり、参加店でも83%が次回も参加したいと回答した。</p> <p>この他にもGO TO 商店街事業による集客イベント等が商店街とまちづくり会社によって企画されたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止あるいは延期となり開催できず、回遊率の向上には繋がらなかった。</p>
事業の今後について	<p>大変好評であった「石巻まちゼミ」を、次年度以降も参加店を増やしながら開催する方向で検討が進められている。コロナ対策を行いながら開催できる集客イベントを徐々に開催していく。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

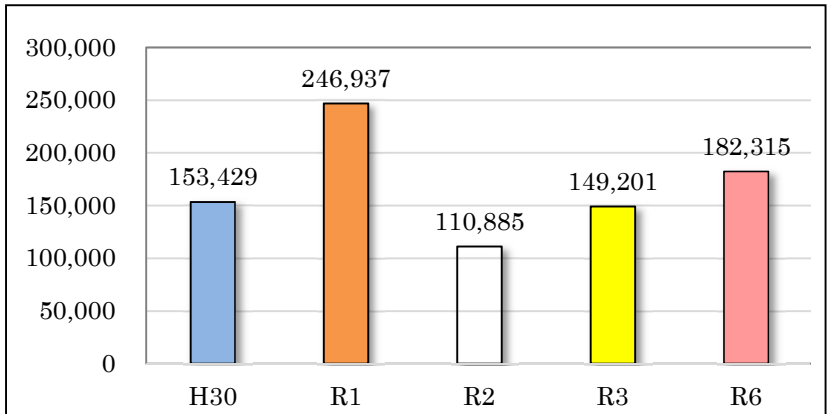
令和4年度にはかわまち交流拠点整備事業の完結となる「(仮称)かわまち交流広場」の整備の完結により、川沿いエリアの更なる交流人口の拡大が図られ、中心市街地の活性化に大きく寄与する拠点として、賑わいを創出が見込まれることから、目標は達成可能であると考えます。

また、石ノ森萬画館やいしのまき元気いちばのある川沿いエリアについては、通行量が増加傾向にある中、立町・中央エリアにある商店街へ観光客をどう誘導していくのが課題であり、「街なかイベント開催助成金」や「石巻マンガロード新名物創出事業」等のソフト事業を通じて、中心市街地の活性化を図っていく。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「市民交流施設4施設の利用者数(人/年)」※目標設定の考え方認定基本計画P.78~P.79参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H30	153,429 (基準年値)
R1	246,937
R2	110,885
R3	149,201
R6	182,315 (目標値)

※調査方法：施設の利用者数の集計

※調査月：毎年度3月末

※調査主体：石巻市

※調査対象：石巻あいプラザの利用者数、旧観慶丸商店の利用者数、かわまち交流センターの利用者数、アイトピアホールの利用者数

〈分析内容〉

令和3年度については、石巻あいプラザの利用者数が70,246人、旧観慶丸商店の利用者数12,957人、かわまち交流センターの利用者数64,301人、アイトピアホールの利用者数が1,697人という結果となっており、令和2年度と比較すると人手が戻りつつ状況にあることが言える。

また、アイトピアホールについては、主に会議室等の貸業務を行っていることから、今般の社会情勢におけるリアルによる会議が減り、リモートワーク等の活用が主流になりつつあり、利用者が減少傾向にあることから、今後の活用について研究が必要である。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 石巻市かわまち交流拠点施設管理運営事業（市（指定管理者））

事業実施期間	平成30年度～【実施中】 [認定基本計画：平成30年度～]
事業概要	石巻市かわまち交流センター、石巻市かわまち立体駐車場、石巻市かわまちバス駐車場、石巻市かわまち交通広場を指定管理により運営し、観光ハブ機能を有し、市民や観光客が気軽に利用できるスペースとして、サロン・ミーティングスペース・キッチン等の利用開放や、観光情報案内、イベントの開催等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年） [認定基本計画] 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年）
事業目標値・最新値及び進捗状況	[事業効果] 観光情報発信機能、中心市街地のにぎわい創出のためのイベント企画実施、地場製品の販売促進支援により、市民や観光客、交流人口の増加や賑わいの創出を行っている。 [進捗状況] ・ねこふえす展示 ・i感謝博イベント 等
事業の今後について	今後もかわまち交流拠点内の核となる観光交流施設として、市内エリアの観光スポットを有機的に繋ぐハブ機能を有した観光情報発信拠点として、積極的に情報発信を行い、誘客に取り組んでいく。 また、隣接する元気いちばと連携し、地場製品の普及に努める。

②. 石巻健康センター あいプラザ・石巻活用事業

事業実施期間	平成21年度～【実施中】 [認定基本計画：平成21年度～]
事業概要	健康・福祉の拠点施設として各種講座の展開や、プールやジム等の施設提供を行うことで、地域住民の健康づくりを推進する。
国の支援措置名及び支援期間	なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	[事業効果] 本施設が街なか回遊の拠点機能となるとともに、賑わいの創出が期待できる。 [進捗状況] 令和2年度と比べ利用者数は増加したものの、新型コロナウイルス感染症流行以前の水準に戻っていない。
事業の今後について	地域住民にとって、本施設がコミュニティー活動の場となるよう、文化講座や運動講座の見直し等を図り、集客及び賑わいの創出につなげていく。

③. まちなかコミュニティホール活用事業（旧生協）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】 [認定基本計画：平成29年度～]
事業概要	旧みやぎ生協アイトピア店を改修し、みやぎ生協と街づくりまんぼう等の連携のもと、各種イベントや講演会、勉強会等を開催し、市民が集えるまちなかのホールとして活用する。
国の支援措置名及び支援期間	なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	[目標値] 10,794人 [最新値] 1,697人（一日平均4.6人利用） [進捗状況] 令和3年4月から令和4年3月までで1,697人の利用があった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用人数に上限を設けたことやイベント等を自粛する動きがあったことから、昨年度に引き続き例年に比べ利用者は多くはなかった。
事業の今後について	コロナ対策を講じつつ、徐々に交流イベントなどを受け入れ開催していく。

④. 旧観慶丸商店保存活用事業

事業実施期間	平成30年度～令和4年度【実施中】
--------	-------------------

	[認定基本計画：平成30年～令和4年度]
事業概要	市指定文化財である歴史的建造物の保存を図りつつ、中心市街地における歴史・芸術・文化発信拠点として、拠点となる施設の運営及びイベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>[事業目標値] 11,714人（平成30年度） 入館者数実績 令和元年度19,226人 令和2年度 4,787人 令和3年度12,957人</p> <p>[事業効果] 新型コロナウイルス感染症の影響により、開館時間の短縮や講演会等事業の見送りがあったものの、大型イベントの開催効果により、事業目標値を達成することができた。</p> <p>[進捗状況] 令和3年度 ・貸館利用団体数45件 利用延べ日数196日 ・令和4年2月23日特別公開実施 参加者数15人</p>
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症影響の状況を鑑みながら、展示企画やイベントなどを実施していくとともに、感染症対策や環境整備等を行い、利用者が利用しやすい施設を目指していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

あいプラザ石巻、旧観慶丸商店、かわまち交流センターについては、令和2年度と比較しても増加傾向にある中、アイトピアホールの利用者が極端に少ない状況ではあったが、目標達成は可能と見込まれる。緊急事態宣言等によるイベント自粛期間があった中でも前年度より33,114人も増加しており、今後行われる各種イベント等を通じて中心市街地の活性化に取り組んでいくことで、来年度には目標に大きく近づけると思われる。

また、アイトピアホールの活用については、貸会議室の利用が少ないことから、今後の活用について研究していく。